

新商品先物市場のしくみ



価格変動に対するリスクヘッジの重要性

2002年1月、米大手自動車会社フォードモーター社が株主代表訴訟を起こされました。同社の2001年財務報告書において、排気ガス浄化装置(触媒コンバータ)に使用するパラジウム取引で9億5,300万ドルの損失が発生したことが発覚。株主は、同社がパラジウムの価格変動についてリスクヘッジをしていなかったため損失を被った、と提訴しました。結果、この訴訟は原告側が同社の虚偽報告、投機隠ぺいをしたことを証明していないとし、ニューヨークの南部裁判所で棄却されました。しかし、訴訟先進国米国では、価格変動リスクをヘッジしなかった「リスクヘッジに関わる善管注意義務違反」により株主代表訴訟が行われ、原告側が勝訴した実例があります。

企業は、金利、株価、為替、商品など様々な価格変動リスクを抱えています。様々な商品価格が歴史的な高騰を演じ、乱高下している昨今、商品の価格変動に対するリスクヘッジは、今まで以上に重要になってきているといえるでしょう。

商品先物市場には、社会的な機能(役割)が主に3つあります。

「透明で公正な価格の形成・発信機能」

「価格変動リスクのヘッジ機能」

「資産運用機能」

さらに「価格変動リスクのヘッジ機能」の補完的な機能として、以下の3つがあります。

「換金・金融機関機能」

「実物取得機能」

「在庫調整機能」

今回は、以上6つの商品先物市場の機能(役割)について、解説します。

商品先物市場の機能(役割)

1) 透明で公正な価格の形成・発信機能

モノの価格は、原則として、売り手と買い手のバランスによって決まります。多数の売り手と買い手の存在によって取引所で成立した価格は、ただちに内外に発表され、生産者が値決めを行う際や需要家が商品を購入する際に、価格指標として参考にされています。たとえば、新日本石油や出光興産などの石油元売り会社では、石油製品の卸売価格を決定する際、東京工業品取引所における石油製品の先物価格を参考にしています。

2011年8月より、コメ先物取引が72年ぶりに東京穀物商品取引所と関西商品取引所に試験上場されました。米は、「世界の三大穀物(米・小麦・とうもろこし)」のひとつです。しかし、小麦やとうもろこしと異なり、世界的な指標価格となる市場は存在しません。今回開設されたコメ先物市場が世界的な指標価格となり得るか否か、注目されます。

2) 価格変動リスクのヘッジ機能

先物市場には、将来の価格変動リスクを第三者へ移転、回避する場を提供するヘッジ機能があります。現物価格と先物価

格は、原則、連動し、先物価格は取引最終日には現物価格と同値に収れんします。ヘッジ取引とは、これら値動きの特徴を利用して、現物取引で発生する損益を先物取引の損益で相殺する行為のことです。

ヘッジ取引には「買いヘッジ」と「売りヘッジ」があります。「買いヘッジ」は、将来の価格上昇リスクに備えるものです。たとえば、将来、原材料の購入を予定している時、今後の価格変動に関係なく、現在の価格に近い価格で原材料を購入したい場合や、現時点で購入すれば発生する保管コスト(金利・保管費用等)の負担を避けたい場合などに用います。「売りヘッジ」は、価格下落リスクに備えるものです。たとえば、将来、商品の売却を予定している時、今後の価格変動に関係なく、現在の価格で商品を売却したい場合や、保有している商品の価格下落を回避したい場合などに用います。

3) 資産運用機能

商品先物取引は、現物の受け渡しをすることなく、売値と買値の差額(差金)を決済する、差金決済取引が可能です。この売値と買値の差額が損益となります。また、少額の資金(=証拠金)を差し入れまたは預託することによりその数倍の取引を行うという、レバレッジをきかせた取引を行うことができます。そのため、非常に資金効率が良いといえます。

4) 換金・金融機関機能

手元にある商品を商品先物市場で売却し、換金することができます。また、米国では、農場経営者や穀物取扱業者などが穀物価格の変動リスクを商品先物市場でヘッジしている場合、銀行が、その在庫の一定割合までの融資条件を緩和することがあるそうです。

5) 実物取得機能

商品先物市場を利用して、商品現物を取得することができます。たとえば、金や白金(=プラチナ)などを一般小売価格より割安な価格で購入することができます。

6) 在庫調整機能

一定の条件の下に、今ある商品在庫を調整することが可能です。たとえば、現在保管している商品を売却すると同時に、先物市場で将来、同量の商品を購入する契約をします。こうすれば、倉庫料を削減することができます。さらに、売却代金の一部については金利収入を得ることも可能となります。

上記事項や商品先物取引の仕組みなどについて詳しくは、日本FP協会認定継続教育(通信研修)テキスト「新・商品先物市場の仕組み～資産運用からリスクヘッジ機能まで～(前編)」<https://ssl.nichizei.com/nbs/modules/fp/index.php/keizoku.html>をご参照ください。

著者プロフィール

三次 理加 氏

CFP(R)認定者。95年カネツ商事入社、08年9月に退職。

ラジオNIKKEI第1「ファイナンシャルBOX」、BSジャパン「マーケットウィナーズ」に出演するほか、『証券新報』にコラム連載中。06年4月から09年3月まで3年間、「夕刊フジ」にコラムを連載。著書に『ネットで簡単！リカがやさしく教える商品先物 超入門』(柏書房)、『入門 商品投資のすゝめ』(同盟出版サービス)がある。

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488